

## 委員会活動報告書

委員長名 大木幸子

<b>【委員会名】</b> 教育課程委員会	
<b>【メンバー】</b> ◎大木幸子(杏林大学)、○岩本里織(神戸市看護大学)、*佐伯和子(前北海道大学)、下山田鮎美(東北福祉大学)、鈴木 美和(淑徳大学)、滝澤 寛子(京都先端科学大学)、波田弥生(神戸市看護大学)、橋本文子(徳島文理大学)、平野 美千代(北海道大学)  50音順、◎委員長、○副委員長、¥会計担当、*会員校以外の委員、( )所属名	
<b>【活動方針】</b> 1. ・看護師教育における地域看護学教育に関する検討結果を周知する。 2. ・保健師教育評価指標を改訂する。 3. ・親子保健活動における公衆衛生看護学の技術の体系化と教育方法について公表・周知する。	
<b>2019(令和元)年度</b>	
<b>達成目標</b>	1. 親子保健活動における公衆衛生看護学の技術の体系化と教育方法について検討する。 2. 母子保健活動における公衆衛生看護学の技術の体系化と教育方法について検討結果の公表・周知する。 3. H28年度に検討した看護師教育における地域看護学教育に関する検討結果について周知をはかる。 4. 保健師教育の動向や社会情勢を踏まえて課題の整理を行う。
<b>活動報告</b>	1. 委員会開催 全体の委員会に加えて、「地区/小地域」への公衆衛生看護技術の検討を行う「小地域技術班」と公衆衛生看護技術の教育方法の検討を行う「教育検討班」に分かれ、全体会議と班会議を持ちながら検討した。全体委員会6回、小地域技術班2回、教育検討班2回(うち1回はweb会議)を持った。 2. 親子保健活動における「地区/小地域」への公衆衛生看護技術の明確化の検討 4自治体へのヒアリング調査を実施し 収集データから「地区/小地域」での公衆衛生看護技術を抽出した。抽出された技術を体系に組み入れ、「親子保健活動における公衆衛生看護技術」の体系および関連図を再整理した。 3. 教育方法の検討とモデル教材の作成 体系化をしてきた「親子保健活動における公衆衛生看護技術」の保健師教育における教育方法について、「保健師教育におけるミニマムリクワイアメンツ2014」、「公衆衛生看護学教育モデル・コア・カリキュラム(2017)」を踏まえ検討を行った。 4. 2. 3. の成果に関する公表 保健師教育および全保教ホームページで公表